

●支援対象:北野新田里づくり協議会(篠山市-大山 北野新田地区-)

○北野新田の概況

・山陰旧街道沿いの北野新田は、新田の名称の通り、江戸中期の元禄期に形成された新しい集落である。宿場町追入が宿泊客で飽和状態となり、飛脚や商人等を主体とする契約宿を中心とした新しい宿場町として狭隘な段丘尾根の街道筋に形成されたいわゆる街道村である。したがって集落形成当時から専業農家は少なく、宿場の「宿」と付随する商工人街として軒を連ね、今も屋号を有するところが大半である。

○里づくり計画後の北野新田

・北野新田は、住宅開発の動きがあり、年に里づくり協議会を結成し、すでに里づくり計画を策定している。ところが計画策定後、予定されていた住宅開発が業者の都合で取りやめとなり、そのまま今日に至っている。当時の里づくり計画は、土地利用計画のみで、緑化に関する事項を除けば、地域で主体的にまちづくりに取り組み、自ら実践するアクションプログラムは示されておらず、いわば開発を前提とした受身のままで、能動的な取り組みは、川沿い等の緑化のみであった。このため、ほとんど開発がないため、里づくり協議会は、緑化を除けばほとんど機能しないまま現在に至っている。このため平成15年度県のまちづくりセンターのアドバイザー派遣を受けて地域のアクションプランを策定している。

・この時のワークショップで、村中道である旧街道が通学路になっているにもかかわらず、「小学生が挨拶しない」「少子高齢化で子供たちとの会話が少なくなった」といったことが問題点として指摘されていた。ところが取り組み方策となると、里山や、登山道整備、川沿いの緑化等が上がるのみで、家屋周りや旧街道沿いの身近な生活環境改善の視点は、声として上がってこなかった。

○丹波まちづくり支援事業の取り組み

・北野新田は、20世帯あまりの小さな集落であり、高齢化の進展を考えれば、身近な生活空間の改善から取り組みたい。山陰旧街道が通学路であれば小学生はよく通り、そうした小学生と関りあう取り組みを考えたい。そうした思いから、平成15年当初から旧街道筋に灯籠を並べることを市担当者や役員に提案していた。現地を歩くと1里塚の道標もあり、旧街道の面影は色濃く残るにもかかわらず、かつての町家の前に閉鎖的なブロック塀を建てたり、ガレージ化しているところが多く、小学生との会話をしにくいように空間改善している観がある。もう一度旧街道筋としての魅力を味あわせたい。屋号も活用したい。そのためにはただ歩くのではなく、何らかの目的を持って楽しみながら歩くことで、かつての旧街道を味わうことになる。屋号が映える手作り灯籠の灯りは、旧街道を楽しみながら味わう手段である。こうして丹波まちづくり支援事業として手作り灯籠を旧街道に並べる取り組みが始まった。当初反対していた役員もあったがとにかく取り組んでみようとする市担当者とともに説得しながら、「丹波たんころ」の取り組みが始まった。具体的な支援内容と日程は、以下の通りである。

取組事項	内 容		備 考
	実施時期	活動内容等	
・四阿を中心に公園の再整備計画を策定。今年度はワークショップで ・公園の夢を語り、現地での確認調査、ロープを使った実測を経て、公園のゾーニングプランをみんなで策定する。	7月20日(火)	事前打ち合わせ	—
	8月4日(水)	明かり作家の国分由美子氏(奈良)と事前打ち合わせ	—
	8月28日(土)	参加者説明会	1回
	9月1日(水)	中尾竹店等材料発注打ち合わせ等	—
	9月11日(土) ワークショップ①	○竹フレームづくり ・体験ワークショップ、公園の想いを語る、公園夢プラン	1回
	9月25日(土) ワークショップ②	○灯り基盤と和紙シェードの製作 ・敷地の読み取り、残したいものチェック、行為の検討	1回
	9月29日(水)	公開展示の打ち合わせ ・地域の人たちと定款、予算書の確認協議。	1回
	10月9日(土) 10月10日(日)	○秋祭りの公開展示 ○ミニ個展:国分由美子の世界	1回
	計		5回
	○添付資料 ・北野新田ワークショップ便り ・新聞記事		

○ワークショップの開催



○みんなで手作り灯籠を創る。



○土台は大山にふさわしく間伐材を使う。



○庭先に並べ旧街道を照らそう。



○アート心が非日常な空間を演出。



○明かり作家：国分由美子氏を講師に迎える。



○地場の竹を編む。



○リンクランプを和紙で覆う。



○各自演出の個性的な灯籠が旧街道筋に並ぶ。



○灯籠を愛でながら会話が弾んだ。

